

オリガミアンだより

第49号 2021年7月7日発行

オリガミアン発会式と初練習から

ちょうど1年経ちました

記念の日には

カエルに挑戦

コロナ禍に明け暮れた1年。何度も何度も休講を余儀なくされましたが、気がつくとオリガミアン発会式と初練習をした昨年7月7日からちょうど1年が経ちました。立ち上げてすぐにコロナ騒ぎが大きくなり、クラブがどうなっていくか正直言って不安でしたが、何と今日から2年目に入ります。これも会員の皆様の力強いバックアップのおかげです。心から感謝します。

当クラブの正式名称は皆さんご存じのように「おとなの折り紙オリガミアン」です。おしゃれな折り紙を折り伝えようと専門誌やテレビなどから題材を探してきては懸命に挑戦し、友人・知人らにプレゼントしてホコホコ気分の表情に接するのが最上の喜びです。

これまで折り紙に全く縁のなかった方も一つの作品をマスターすることで家族との話題が深まり、お孫さんを唸らせる経験が持てたことでしょう。

オリガミアンはこれからも同じ道を追究していきます。会員の皆様、よろしくお願いいたします。



口を大きく開いた金カエル。何と読もうとあなたの勝手です



ウサギさんの勝ち
鳥獣人物戯画 高山寺



慣れてくるとカエルさんを立たせることも可能。「鳥獣戯画」の世界を現わすことも出来ます



カエルさんの勝ち
鳥獣人物戯画 高山寺

7月6日に再開された練習では季節も考え「カエル」を取り上げた。「カエル」と言っても子ども向けのピョンピョンガエルから大人向けの折り紙専門誌に載っている本格的なものまでさまざま。この日、挑戦したのはもちろん後者。講師を買って出た吉都紀都喜子さんが最初に「このカエルを折る時は正方形の紙は使わず1:√2の紙が必要です」と注意を喚起。手元に正方形しかない場合の1:√2の紙の切り出し方もレクチャーしてから練習に入った（「オリガミアンだより」第13号参照）。

この「カエル」は見た目はシンプルで簡単そうだが、そう見せるためにはさまざまな工夫が必要だ。教室でカエルについて多少腕に覚えのある会員らがカエル初心者にマンツーマンで張り付き、吉都紀さんの指導ペースに合わせ、折り方のコツを伝授。休憩を挟み、本来は別の作品の復習をする予定だったが「この際、カエルをマスターして帰りたい」という声が圧倒的に多く、講義後半もカエルづくりに集中した。皆さん、良い作品が仕上がったら周りの人たちにどんどんプレゼントしてケロ。



ひよどり台交流プラザの七夕飾りにはオリガミアンから会員3人が助っ人に駆け付け、おおいに感謝されました。

次回練習は7月20日。引き続きカエルの練習をします